

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 4 区分
 【発行日】平成 25 年 1 月 24 日 (2013.1.24)

【公開番号】特開 2011-189553 (P2011-189553A)
 【公開日】平成 23 年 9 月 29 日 (2011.9.29)
 【年通号数】公開・登録公報 2011-039
 【出願番号】特願 2010-55766 (P2010-55766)
 【国際特許分類】

B 3 2 B 5/24 (2006.01)

D 0 4 H 1/425 (2012.01)

【F I】

B 3 2 B 5/24

D 0 4 H 1/42 F

【手続補正書】
 【提出日】平成 24 年 12 月 4 日 (2012.12.4)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

セルロース系繊維を含む繊維基材の片表面が、難燃剤と熱硬化性樹脂を含むアクリル系樹脂バインダによって接着されている表皮材用基材であり、繊維基材を構成する繊維の繊維度が 2 . 2 d t e x 以下であり、かつアクリル系樹脂と熱硬化性樹脂との質量比率が 8 0 : 2 0 ~ 6 5 : 3 5 であることを特徴とする表皮材用基材。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の表皮材用基材における繊維基材の、アクリル系樹脂バインダによって接着された表装面と反対面に、2 0 0 以下の融点をもつ樹脂を含む接着剤層を備えていることを特徴とする表皮材。

【請求項 3】

目付が 3 0 ~ 8 0 g / m ² であることを特徴とする、請求項 2 に記載の表皮材。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 1 7
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 1 7】

「請求項 2 又は請求項 3 に記載の表皮材と基材マットとが熱成形により、接着剤層を介して一体化されていることを特徴とする成形体。」であるのが好ましい。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 1 8
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 1 8】

「自動車のエンジンルームにおける吸音材として使用することを特徴とする、前記の成形体。」であるのが好ましい。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0022

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0022】

本発明の成形体は、前記表皮材を用いているため、難燃性に優れ、離型性に優れているため生産性に優れ、追従性にも優れているため表面品位が優れた成形体である。また、トリミング性良く製造できるため、表皮材と基材マットとが剥離しない成形体である。更に、前記表皮材と基材マットとが熱成形により、接着剤層を介して一体化されているため、表皮材と基材マットとが強固に接着一体化したものである。更に、繊維基材構成繊維の繊維度が2.2 d t e x 以下と細く、単位体積あたりの繊維本数を多くすることができるため、軽量、低コスト化のために繊維基材の目付を小さくした表皮材であっても、表皮材を基材マットと成形一体化した際に表皮材が透けず、意匠性に優れた成形体であることができる。

。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0023

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0023】

本発明の成形体は、自動車のエンジンルームにおける吸音材として使用すると、前記成形体の効果に加えて、吸音性能にも優れている。